

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	白石町立有明西小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 授業の充実、指導力の向上を目指して職員研修を実施し、教師一人ひとりの授業改善に取り組むことができた。学校と家庭との連携を充実させる。 年間通して縦割り活動(縦割りグループ遊び、縦割り掃除)を実施し、異学年との交流および相手を思いやる心の育成につながった。 相手よりも先に元気に気持ちのよいあいさつができる児童が増加した。ノーチャイムで時間を守る、外遊びの推進については児童会活動をいかして取り組ませたい。
2 学校教育目標	笑顔であいさつ さわやか西小っ子を育てる チーム有西！ ～思いやりと活気、やる気を育てる教育活動の推進～

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 思いやりのある児童の育成を目指して、「絆」「思いやり」を意識した集団活動を充実させる。 活気があり進んで取り組む児童の育成を目指して、あいさつレベルアップ、時間を守ること、外遊びを推進する。 やる気をもって学び、互いに高めあう児童の育成を目指して、授業の充実、指導力の向上、家庭学習の推進を図る。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

重点取組	評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
					進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・マイプランの内容を意識して指導している教職員は、91.7%である。マイプランの成果指標を再確認し、具体的な取組を考え授業実践を行う。	A	・マイプランを意識し、学力向上のために工夫しながら授業を実践している職員は92%だった。全職員が共通理解をし、取り組むことができた。	A	・学力向上のポイントを押さえて計画的に正しく指導運営されていると思います。	・学力向上対策コーディネーター
		○児童がわかる、できると思う授業の充実	○「学習中、自分の考えを書いたり話したりすることができる」と回答する児童85%以上。	○「学習中、自分の考えを書いたり話したりすることができる」と回答する児童85%以上。	・一人調べや振り返りの過程において条件やキーワード等を基に自分の考えを表現する場を意図的に設定する。 ・「有明西小っ子学びのスタイル」チェック週間や「家庭学習がんばろう週間」を学期に1回設定する。 ・国語、算数の「知識・技能」の定着に向けた取組を行う。 ・読書を推奨する。	B	・自分の考えを表現することができると回答する児童は84.5%。発言を苦手とする児童については実態把握をし、改善策を考える。 ・基本的な学習習慣の定着については、1学期より2学期と達成率が上がっている。 ・「ことばのきまり」や算数タイムにより、基礎・基本の定着へ向けた取組ができている。 ・必読図書を全部借りた児童は、76%で前年度を上回っている。	B	・「自分の考えを書いている」92%、「発表をしている」71%、「授業が分かるようになった」95%であった。更に学習意欲を引き出し、進んで学ぶ児童を育てていく必要がある。 ・「学びのスタイルチェック」では、児童の肯定的な回答96.6%、家庭学習の目標時間を達成している児童は90.3%である。更に学習習慣の定着へ向けて取り組む必要がある。 ・必読図書を全部借りた児童は、96.8である。今後は、読書の感想や紹介等を行うことで読書力を高めたい。	B	・借りた図書の本は、ただ読むだけでなく、理解しながら考えながら読む力が向上するように指導・取り組みをお願いしたい。また、家庭学習の習慣づけの強化を期待したい。 ・子どもたちに絵本の紹介カードを書いてもらう取り組みはとも良いと思います。これからも続けてほしいです。また、自学ノートや、読書達成(読んでほしい35冊)の取り組みも素晴らしいです。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりの心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「なかよしファミリータイムやたてわりそうじで協力がかつどうすることができた」と回答した児童85%以上	○「なかよしファミリータイムやたてわりそうじで協力がかつどうすることができた」と回答した児童85%以上	・学校行事、縦割り活動、委員会活動等の中で、「絆」「思いやり」を意識した取組を行う。 ・特別な教科道徳や総合的な学習を関連させた人権集会や人権・同和教育を実施する。	A	・「縦割り活動で協力して活動することができた」と回答した児童は96.6%である。高学年が中心となり、時間を守って無言掃除をしたり仲良く遊んだりすることができている。 ・ほかほかカード等の取組により「友達の良いところをみつけ仲良くできた」と回答した児童は91.9%である。	A	・「縦割り活動で協力して活動することができていた」と回答した児童は99%と更に伸びている。縦割り班で協力して時間いっぱい掃除をしたり、ファミリータイムで仲良く遊んだりすることができた。 ・ほかほかカード等の取組を工夫することで、他の学年の児童の良いところも見つけることができた。	A	・異学年交流に協力して取り組むことができてほしいと思います。感動し、豊かな心を育てる教育活動をしっかり取り組んでほしいです。	・集団活動部
		●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの未然防止・早期発見・早期対応)に回答した教員85%以上 ○Q-Uテストの学校生活満足群の児童を昨年度より増やす。	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの未然防止・早期発見・早期対応)に回答した教員85%以上 ○Q-Uテストの学校生活満足群の児童を昨年度より増やす。	・職員連絡会の際に、気になる児童とその対策について話し合う機会を設け、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・再発防止に努める。 ・心のお天気や生活アンケート、Q-Uテスト等を定期的に実施し、児童の様子を把握し、いじめの早期発見・早期対応に努め、情報共有を行う。 ・教育相談週間を設定して、児童の理解を深める。	A	・職員連絡会では、気になる児童についての情報交換をし共通理解ができている。 ・心のお天気やQ-Uテスト等を定期的に実施し、児童の心の状態を把握するように努めている。問題があった際には、ケース会議を開くなど、組織として対応をすることができている。 ・年に2回教育相談週間を設け、一人一人と話ができています。	A	・職員連絡会では毎回児童についての情報交換をし、共通理解ができている。 ・心のお天気は毎月、Q-Uテストは2回実施することができた。児童の心の状態を把握するように努めてきた。 ・6月と12月に教育相談週間を設け、一人一人と話をすることができた。	A	・いじめの早期発見等のために、年に数回アンケートを実施し、回答内容について必ず把握し、対応されているとのこと、今後もいじめの早期発見と児童への最大のケアをお願いしたい。 ・多少のいざごは聞いたりしますが、大きないじめ等はないように思えます。先生方が情報共有をして下さって、日頃から子ども達を気にかけて下さっているおかげだと思います。
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●外で遊ぶ児童の割合を増やす。目標60%以上。	●外で遊ぶ児童の割合を増やす。目標60%以上。	・外遊びへの意欲が高まるような場の設定や呼びかけを行う。 ・委員会活動や行事等と連携して重点的に取り組む週間を設定する。 ・遊びや運動に関する道具や環境の整備をする。	B	・委員会活動の取り組みにより、重点的に外遊びを行う週間を設けることができた。 ・2学期末のアンケート結果によると休み時間以外で遊んでいると答えた児童が全校で62%だった。	A	・委員会が企画した「みんなで遊ぼう」週間やマラソン大会前の「マラソン週間」などを設けることができた。 ・アンケート結果によると休み時間以外で遊んでいると答えた児童が全校で68パーセントだった。 ・遊びや運動に関する道具は、今年度は整っていた。	A	・私たちの時代と比べると現代の児童は体力が低下しているように感じます。ゲームやネットでは得られない他の遊びやスポーツが何かあるのではないかと思います。ま学校独自で体を動かす時間を作っていたらと助かります。学校と地域が一緒になって、知恵を出し合い取り組んでいきましょう。	・保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の削減	・定時退勤日を毎週金曜日、第3水曜日と明確に設定し、意識して実践できるような取組を行う。 ・学期毎に学校運営や業務に関する振り返りを行い、課題の早期解決に努める。	B	・勤務時間が月平均45時間を超えないようにする取り組みは、全職員で共通理解を図り、努力してもらっている。定期的定時退勤日も意識して取り組むことができています。 ・業務に関する振り返りについては、十分な時間がとれておらず、改善までには至っていない。	A	・働き方改革の一つとしている超勤縮減の取り組みは、職員アンケートから78%の職員が意識して取り組めたと回答している。業務内容にメリハリをつけ、ひと月の超勤が45時間を超えないよう引き続き取り組んでいきたい。 ・年度末の業務に関する振り返りの意見を改善策の一つとして取り入れ、業務の精選を行ってほしい。	A	・しっかりと取組ができていると思います。職員の意識ももちろん重要ですが、子ども達のことを思うと、がんばり過ぎることもあると思いますので、引き続き業務の精選など組織での取組をお願いします。 ・役員の仕事も減っています。先生方には、教育だけに専念してもらえるような環境になってほしいと思います。	・管理職

重点取組	評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
					進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
◎志を高める教育	◎志を高める教育	◎児童が目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動(キャリアパスポートの推進)	◎キャリアパスポートでの「1年の振り返り」で肯定的な回答をした児童85%以上	・各種体験活動では、児童に活動の見通しをもたせ、学びの振り返りを行う。 ・キャリア教育を意識した授業実践を年間指導計画のもとに行う。	B	・キャリア教育を意識した授業実践を行っている教職員は83.3%である。活動の振り返りでは、ほとんどの児童が肯定的な考えを記している。	A	・「1年間の学習や行事をふりかえって、自分は前より成長した」と回答した児童は94%であった。めあての達成へ向け意欲的に実践しようとする児童が育っている。	A	・1年間の学習や行事をふりかえり、成長を感じることは素晴らしいことだと思います。「1年間の振り返り」の授業を見学してみたいと思います。	・教務 総合的な学習主任
		○あいさつレベルアップ	○「笑顔であいさつ さわやか西小っ子」の合い言葉のもと、「自分から」「相手を見て」「大きな声で」あいさつができた」と回答する児童80%を目指す。	・機会をとらえて、具体的なあいさつのレベル「自分から」「相手を見て」「大きな声で」を児童に示し、あいさつへの意識化を図る。	A	・運営委員会のあいさつ運動を2回。全校朝会や一斉下校での意識化、掲示物の利用、電子黒板の待ち受け画面での意識化などを行ってきた。アンケートでは、あいさつができていた児童は1学期は84.5%、2学期は83.7%だった。	A	・12月に2回目のあいさつ運動を実施した。全校朝会や一斉下校時など機会をとらえ、全職員共通理解して、指導を行ってきた。学校アンケートでは、あいさつができていた児童は92%だった。	A	・気持ちの良いあいさつで毎朝元気をもらっています。運営委員の方の外国語でのあいさつ勉強になりました。 ・ほとんどの児童が笑顔で、元気に、気持ちの良いあいさつができています。	・生徒指導部

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 年間通して縦割り活動(縦割りグループ遊び、縦割り掃除)を実施し、異学年との交流および相手を思いやる心の育成につながった。来年度も継続して実施したい。 相手よりも先に元気に気持ちのよいあいさつができる児童が増加した。外遊びの推進については児童会活動をいかして取り組ませたい。 授業の充実、指導力の向上を目指して職員研修を実施し、教師一人ひとりの授業改善に取り組むことができた。学校と家庭との連携を更に充実させていきたい。
--------------------	---

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育